



園だより ～きづき～

キ3園 第62号

2025年10月号

キッドワールドサード保育園

園長 是永 妃富

ようやく暑さが和らぎ、秋の涼風が吹き抜けます。季節は巡って「実りの秋」を迎えました。春、夏を経て、子どもたちも一回り大きく成長したように見える今日この頃です。

10月は、園庭や公園に行き、体をたくさん動かして遊ぶ活動を入れています。子どもたちの笑顔が見れそうです。



お弁当日は **10月25日(土)**です



10月行事予定

10日(金) 身体計測

16日(木) 健康診断

24日(金) 避難訓練

11月15日(土)運動会ごっこ

(歯科検診については後日お知らせします)



朝のお集り

名前を言われると「はいー」と1歳児さん
自分の名前が言える2歳さん

お知らせ・お願い



- ・9月13日(土)のおまつりごっこでは、親子で参加いただきありがとうございました。たくさんの喜びの声を聞き、笑顔を見ることができました。ご協力に感謝致します。
- ・秋バテという言葉に耳にします。夏の暑さの疲れがでるようです。気をつけて過ごして行きましょう。
- ・肌寒い日は、上着で調節しましょう。
- ・欠席の場合は、9時までに連絡を入れるようにお願いします。 **554-8500に電話をください。**
- ・運動会は11/15(土曜日)です。みなさんで応援よろしくお願い致します。
- ・今月は次年度の継続書類を提出してもらうようになります。市から書類が届きましたら各家庭にお渡ししますのでよろしくお願いいたします。

9月子どもたちの様



- ・残暑の厳しい9月でした。
園庭でシャワー遊びをしたり、すべり台で遊びその後シャワーにかかったりして暑さを乗り切りました。
- また、おまつりごっこの後は、子ども達に余韻が残っていて、海の中の装飾を楽しみ、フォトスポットの前では、「はい！チーズ」等、自分達でポーズをとったりして遊ぶ姿が見られました。

子どもが見る大人の世界と大人の受け止め

子育てに大切なことを知らせてくれています。是非お読みください。



今回は、前回説明することができなかった、「子どもが見る大人の世界」ということを踏まえて、実際に子どもたちと接する私たち大人が気をつけたいポイントについて説明してみたいと思います。



まず、最初のポイントは、「子どもと目と目を合わせて話すこと」です。特に年齢の低い乳児の場合、子どもたちは安心感や信頼感をスキンシップやアイコンタクトから感じ取り、そのことが子どもの育ちを支える情緒の安定にもつながっています。大人でもそうですが、相手がこちらの目を見て話を聞いてくれないと話を理解してくれているかどうか心配になります。幼い子どもは不安が強いと泣きだしてしまうこともあります。したがって子どもと話す場合には、しっかり目と目を合わせてアイコンタクトを取ることが大切です。

ここでひとつ気をつけておかなければならないことは、発達障害や自閉的傾向のある子どもの場合には、目を合わせることが辛くてできない場合があります。その時は子どもを怖がらせないように目と目を合わせることは避け、子どもが自分から目を合わせてくれるようになるまでゆっくり待つようにしてください。



次のポイントは、「子どもの目線に合わせて話すこと」です。目線の高さについては、子どもたちの縦の方向の視野は 70 度、横の水平方向の視野は、90 度と大人に比べ狭くなっています。そのため子どもたちと関わる時には、子どもの視野に入るように配慮することが大切です。

子どもは頭の上から言葉をかけられると、その声に威圧感を感じてしまい、信頼感を作ることが難しくなります。そこで、子どもの話を聞く時や話しかける時には、子どもの目線まで屈んで子どもと目を合わせて話をしあげるようにします。



三番目のポイントは、「話をする時の目の表情にも子どもが見ていることを意識すること」です。「3 歳児が大人の顔のどの部分に注目しているか」を追及した研究によると「目、口、鼻」のうち最も注視する時間が長かったのは「目」であったといえます。子どもとの信頼関係を作るのに笑顔がとても大切だと言われていますが、この笑顔の場合にも、よく口角を上げることが大切と言いますが、3 歳児の場合は「目の表情」を柔らかくすることの方が大人の心が伝わりやすくなると言います。

「目は心の窓」とも言われていますので、心を表すには目の働きがとても大切になるようです。子どもと接しながらつい辛いことを気にしていたり、心配事を抱えていたり、疲れていたりするとその微妙なニュアンスが目を通して子どもに伝わってしまうこともありますので、子どもと向き合うときには十分に心の状態を整えておくことが大切です。



四番目のポイントは、「喜怒哀楽の表情が子どもに伝わることに気を配ること」です。 私たちが表情豊かに子どもと接している時と、無表情で接している時の子どもの反応は歴然と差が出てきます。無表情で子どもに接していると子どもは不安を感じて泣き出してしまうこともあります。大人の表情はアイコンタクトやスキンシップと同じ様に子どもに愛情や安心感を与えます。子どもたちには私たち大人が肯定的に受け止めてもらえるように感情豊かな表情で接することが大切なのです。

また、子どもに対する表情だけでなく、他の人やものに対する表情も子どもが見ていますので、気をつける必要があります。1 歳頃からは社会的参照という能力があらわれてきますので、他の人

に対して大人が警戒していると子どももその警戒を感じてしまうので注意が必要です。



五番目のポイントは、「表情と感情を一致させること」です。子どもは生後8カ月越えると人の表情に対する理解が進み、自分の行動の良し悪しを大人の表情などから読み取ることができるようになります。そのため、子どもを褒める時、叱る時などには、その感情に見合った表情をすることが大切です。感情と表情が一致していなければ、子どもは混乱し、気持ちが伝わり難くなります。ストレートなわかりやすい表現が大切なのです。



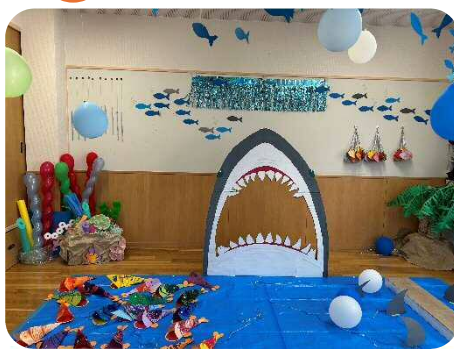
最後の六番目のポイントは、「子どもの目に入る場所で愚痴や人の悪口は言わない」ということです。当たり前のことですが、子どもたちのいる前で、仕事や家庭の愚痴や他の人の悪口などを話すことは避けなければなりません。子どもたちは5歳になると神経系統の8割が成長し、言葉が理解できなくても話している大人の表情などから話の内容のニュアンスを理解すると言われています。したがって子どもの近くで子どもに聞かすことができないような話はしないように気を付けなければなりません



一方、大切なことは子どもの目を見て話しかけると、言葉は分からなくても伝えたいことは子どもが感じ取って、大人の気持ちに合わせて笑ったり喜んだりします。感受性豊かな子どもの成長には、愛情に満ちた大人の言葉が大切です。それらの言葉に出会うことによって子どもは心豊かに育っていくのです。



子どもは大人の姿をよく見ています。匂いや感触そして声、優しいまなざしでこの人はママだ！パパだ！とわかります。目と目を見つめあいニコッと笑う姿はなんともいえないものがあります。スキンシップを取りながら優しい声かけをしてみてもいかがでしょうか。今が大切です。



お祭りごっこの装飾です

